

通勤電車の中でも、患者のベッドサイドでも： DynaMedはいつでもどこからでも あなたの臨床上の疑問に答えます



エヴァンス医師の一日を覗いてみましょう

エヴァンス医師はHealth Safe Hospital (350床/医大付属病院)の循環器科に勤務しています。日々の診察・治療に加えて、エヴァンス医師は院のインターン/レジデント/後期研修医の教育実習を担当し、更には、少数の研究イニシアチブに取り組み、リサーチコミュニティで積極的な活動を行っているメンバーでもあります。



☀ 朝はスマホから

エヴァンス医師の多忙な一日は、朝の通勤電車に乗り込むところから始まります。彼女はこの時間をCME (生涯教育制度/continuing medical education)とMOC (認定資格維持/maintenance of certification)の単位の取得に充て、有効に活用しています。

スマートフォンを取り出し、DynaMedのモバイルアプリ (Apple / Android OS 双方の端末に対応しています)を立ち上げると、彼女の診療科である循環器学の幅広いトピックに関する最新の医療エビデンスを参照していきます。DynaMedでは、検索ごとに、CMEとMOCの単位が加算されるようになっています。もちろんモバイルアプリも利用状況を継続的に追跡しているので、いつでも単位を加算することができます。

エヴァンス医師は、人工心臓弁に関する興味深いトピックを見つけたので、後で精読するために記事を保存し、またトピックをフォローして継続的に情報をチェックしようと決めました。また、同僚のトンプソン医師にトピックをメール送信することで情報を共有し、役立てて貰うことにしたようです。



☀ 午後はEHRから

エヴァンス医師の一日は、せわしく過ぎていきます。医学部生と共に病室での診察を終え、退室した時のことです。一人のレジデントが、患者の症状に関する質問をしてきました。そこでエヴァンス医師は、「EHRからDynaMedを参照するように」と伝えました。

DynaMedはEHR (electronic health record) との統合が可能で、EHR内のHL7情報ボタンをクリックすることで、患者の症状に関連したトピックを参照することが出来ます。また、DynaMedはシングルサインオンに対応しているので、エヴァンス医師も学生たちも、いちいち再ログインする必要なく、シームレスにDynaMedへ移動することができるのも大きなメリットでした。

エヴァンス医師はこういった場を指導のチャンスとして、学生たちがトピックを閲覧し、そのトピックを通じて自らの疑問を解決するよう教えています。答えとなる内容は素早く・簡単に見つけることができますし、レジデントたちは新しい知識を得ることで、将来の研修にも自信をもって臨めることでしょう。



🌙 夜はリモートアクセスで

慌ただしかった一日もようやく終わりに近付き、エヴァンス医師は、彼女の研究分野に関してまとめる作業を行うことにしました。

彼女は自身のタブレット端末から、DynaMedのパーソナルアカウント (個人アカウント) にログインすると、研究領域である人工心臓弁について、最新の医療エビデンスを検索し始めました。朝、通勤する電車の中でフォローしたトピックを再度参照し、直近で閲覧したいくつかのトピックと併せて閲覧していきます。

個人アカウントを利用することで、どんなデバイスからでもDynaMedにリモートアクセスすることが出来る……エヴァンス医師はこの柔軟さを気に入っています。

DynaMed®

医師をはじめとする医療従事者が、診療サポートツールを十全に活用するには、ツールが日々のワークフローに溶け込み、シームレスに利用できる環境づくりが必要です。

DynaMedは、ユーザーが必要としている場所・時間・方法でアクセスできるよう、様々なオプションを提供し、多忙な臨床医のニーズに前もって応えます。

DynaMedに関する詳細情報は公式サイトで

日本語 製品サイト